

高い「評価」と「期待」

「決算議会」と称される9月定例会は、前年度に取り組まれた各種の事業や住民サービスに係るから5類に引き下げられ、対面での行事やイベントが再開された令和5年度。ポストコロナ元



PICK UP
01

こども医療費の支給 7184万円

A 受給者数は前年度比で484人増えました。また、こども医療費全体に占める16～18歳の割合は約11%・770万円となりました。県内において、現物給付も拡大・浸透したことにより、町の子育て世代の経済的負担の軽減と、児童の福祉の向上が図られていると捉えています。

Q 対象年齢を15歳から18歳まで拡大した初年度の実績等は。

Q 経済的負担の軽減に

もっと!
受診しやすい環境へ

期待



PICK UP
03

庁舎トイレのバリアフリー化 1144万円

AQ 「バリアフリー法」や「埼玉県福祉のまちづくり条例」に準拠し、車椅子対応の大便器やオストメイト・自動開閉ドアなどを設置しました。また、壁の改修工法等を見直し、安全性・利便性・耐久性の向上を図る中で、全ての利用者が安心して使用できる改修が済んだと捉えています。

Q 改修工事の内容は。

ぐっと!
使いやすい環境へ

評価

ポストコロナ元年に 推して進んだ取組は

費用と効果をチェックする重要な機会です。新型コロナウイルス感染症の取り扱いが2類相当年における町の取組を振り返り、議会が寄せた「評価」と「期待」をピックアップします。



PICK UP
02

道路・公園の照明灯LED化 1億4028万円

A 電気料金は、燃料調整費等の増減による変動があるので単純な比較はできません。参考として、令和5年度の月平均である「道路照明灯161万1000円・園内灯9万1000円」と比べ、令和6年8月は「道路照明灯95万円・園内灯4万7000円」となり、いずれも4割超の縮減となっています。

Q 各照明灯のLED化による電気料金の縮減効果は。

電気料4割超の縮減に

監査委員の意見(抜粋) 《人生100年時代を見据えた健康寿命の延伸を》



議会選出監査委員 山口勝士

歳出においては、各施設や設備の老朽化対策が急務となることから、個別修繕計画の策定や推進体制の整備が必要と考る。また、医療・介護の需要増などで、社会保障関連経費の増加が見込まれるため、その抑制に向けた取組を望む。「人生100年時代」を見据えた「健康寿命の延伸」につなげる予防用を図り、財源の確保に努めるべきである。



代表監査委員 福島崇晃